これからの公共施設のはなし

問 資産経営課☎(内23)25－3257

資産経営課長 土井 浩さん

皆さんは生活の中でどんな公共施設を利用していますか。
市役所、まちづくりセンター、図書館、保健所、体育館や公園などでしょうか。
そのほか学校、焼却工場、上下水道施設や、道路、橋なども生活する上で必ず利用している施設です。
こうした生活に必要不可欠な公共施設を、子や孫の世代まで残すための未来のまちづくりのために、今、公共施設について考えてみましょう。

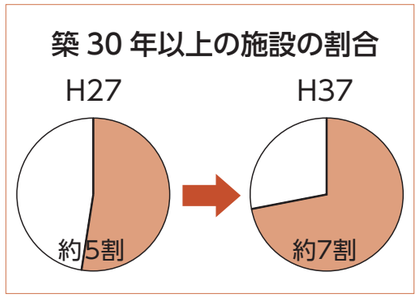
一斉に訪れる老朽化の波

地域で様々な活動に使われている公共施設に今、老朽化の波が訪れようとしています。

文化・教育・地域活動など私たちの生活に欠かせない市の公共施設は、その約5割が築後30年を経過した建物で、その数は10年後には約7割にまで達する見込みです。

これらは老朽化や耐震性の問題などから、改修・更新費用が増加していきます。

市には公共施設が800施設二千二百棟以上ありますが、老朽化は建物だけの問題ではなく、道路や橋りょうなど私たちが普段利用しているインフラも例外ではありません。



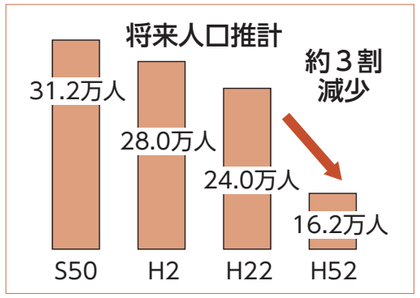
減りゆく人口 増える未来への負担

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、市の人口は、今から30年間で約3割減少し、主な納税者となる生産年齢人口（15歳～64歳）に至っては、今より4割も減少する見込みです。

この人口構成の変化により、公共施設の必要性やその利用目的、利用方法にも大きな変化が起こるのではないかと考えています。

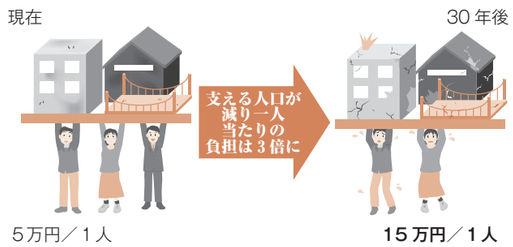
また、このままだと徐々に税収は減り、計画的な整備が思うようにできなくなるおそれがあります。

これまでも市では、公共施設再配置計画などを策定し、限られた行政資源の中でサービスの質を向上させるため、公共施設の有効活用や運営方法の見直しを行ってきました。



詳しくは、公共施設白書や公共施設再配置計画で確認してください。資産経営課（市役所5階）・各支所で閲覧できます。
市ホームページでも見ることができます。

建物・道路・橋りょう・上下水道の年間市民負担額の目安



皆さんがプロデューサーです

昨年、今後の公共施設はどのように維持・管理していくべきかについて、市民意識調査を実施しました。多かった意見は「同じ目的の公共施設を一つにまとめ、使わなくなった施設を廃止する」など、機能の集約化を進めるべきというものでした。

こうした声を生かしながら地域の皆さんと議論を深めていきたいと考えています。地域に出向いて行う出前トークや、シンポジウムなどを開催しますので、皆さんの声を聞かせてください。未来に残す公共施設の姿について一緒に考えましょう。

出前トーク
「これからの公共施設」

対象 10人以上の団体・グループ
申込 申込書を秘書広報課または各支所へ
※申込書は秘書広報課・各支所で配布。
市ホームページからもダウンロードできます。

シンポジウム
「これからの公共施設を考えましょう！」

日時 11/28(土) 14:00～16:00
場所 ビュー・ポートくれ（中通1－1－2）大ホール
《基調講演》
講師 東京大学公共政策大学院客員教授　内藤伸浩さん
演題 公共施設改革とまちづくり
《パネルディスカッション》
パネリスト 東京大学公共政策大学院客員教授　内藤伸浩さん
建築保全センター　池澤龍三さん
申込 当日直接会場へ

今後の計画を立てています
「呉市公共施設等総合管理計画」

市営住宅・集会所などの建物、道路・橋りょうなどの管理（更新・統廃合・複合化・長寿命化など）に関する基本的な方針を定めます。

●計画に対する意見を募集します（パブリックコメント）
日時 12/15(火)～来年1/15(日)に、郵便またはメールで資産経営課（〒737－8501〔住所不要〕・✉sisankei@city.kure.lg.jp）へ　※計画（案）は資産経営課（市役所5階）、市ホームページで見ることができます。
●計画決定　来年3月中旬頃　**●計画公表**　来年3月末頃

東京大学
公共政策大学院
客員教授　内藤伸浩さん

公共施設の未来が生活やまちの魅力に大きく影響する

人口が減少し財政も厳しい中、一斉に老朽化する公共施設をいかに維持更新していくかは、全国の自治体に共通の問題です。

市の財政のみならず、市民の生活やまちの魅力を大きく左右する課題でもあります。

もし今ある公共施設のすべてを持ち続けようとすれば、何とか使える状態を維持するのが精いっぱいであり、大きな予算を投じても、結局古くて使い勝手の悪い施設をだましだまし使っていくことになるでしょう。

新しいまちづくりに向けて、検討すべき選択肢、賢い予算の使い方など、一緒に考えましょう。

建築保全センター
池澤龍三さん

大事なのは公共施設マネジメントを具現化すること

人口が減ってはならない。地区専用のハコモノがほしい。鉄筋コンクリート造が一番いい。大は小を兼ねる。これまで、こうした固定概念に縛られてはいなかったでしょうか。

これからは、例えば、コンビニと一緒になった公民館があったり、小・中学校の敷地が公園のように多世代が利用する空間になったり、そんな可能性も秘めています。

今、我々が楽しく生きるためにも、固定概念にこだわることなくこれからの50年を考える。次の世代が自由に選択できる社会基盤をもう一度考え直してみる。こうした知恵が求められているような気がします。そして、大事なのは、それらを一つひとつ具現化させていくことだと思います。